

第5学年 外国語科学習指導案

日 時：令和元年 11 月 7 日(木)

第5校時 13:25～14:10

場 所：5年1組教室

学 級：5年1組 36名

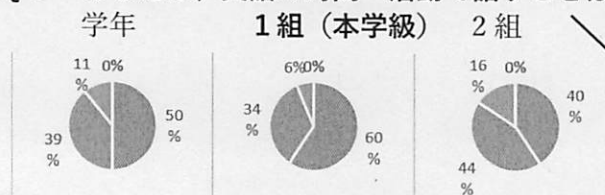
1 単元名

「Unit 5 She can run fast. He can jump high.」

2 児童観

外国語についての興味・関心については、

Q 6 あなたは、英語の時間・活動で話すことは好きですか？



学年間で比較すると、「あてはまる」と答える児童が多い。このような結果になった要因を考えると他教科でも様々な考えを児童相互で伝え合う活動が影響していると考えられる。

Q 1 あなたは、英語の時間・活動が好きですか？



Q 6の結果は他教科の恩恵を受けての数字と考えられるが、「外国語科」の学習のみで好きかどうかを問われると「あてはまる」の数が2組に比べ少ない。英語を学習していくにあたり苦手とはいかずとも、はっきりと「あてはまる」と言い切れず、自信がもてきれないことが考えられる。

このように、本学級の児童は、やりとりなどのコミュニケーションには自信がもっているという傾向があると考えられ、「外国語科」という教科に苦手意識の傾向があると考えられる。その課題を解決するための手立てとして、まず、単元の導入に英語に「なぜ英語を学ぶのか」「英語ができる良さ」等について考え、確認することで、学習していくにあたって前向きな気持ちをもたせた。単元の中でも自信がもてない時には、「英語ができる良さ」に立ち返られるよう、教室に掲示し、その都度確認していく。

3 研究主題にせまるために

- (1) 単元の中に必然性をもたせることにまず重点をおいた。本単元では、身近であるがなかなか機会がないとゆっくり話をすることがない、学級担任以外の教員に「できること」「できることを友達に紹介すること」等の活動を取り入れ、学びの必然性、児童の興味・関心を惹きつける。
- (2) 興味・関心を惹きつけることにより、「何を聞くか」「どのように伝えるか」など児童の主体性を引き出し、学びに向かう姿勢につながると考える。さらに、インタビュー活動を通して、必要なスクリプト以外にどのような言葉が必要かを考えさせることで、対話的な学びへとつなぎたい。
- (3) どのような既習事項が活用できそうか考えることを促し、実際に使う機会を設ける。

4 単元の指導目標

- ・自分や第三者について、できることやできないことを聞いたり言ったりすることができる。また、文字には音があることに気付く。(知識及び技能)
- ・自分や第三者について、できることやできないことを、考えや気持ちも含めて伝え合う。(思考力、判断力、表現力)
- ・他者に配慮しながら、自分や第三者についてできることやできないことなどを紹介し合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)

5 言語材料

(1) 表現(児童の発話)

Can you~? Yes,I can./No I can't. [I/You/He/She] [can/can't]

(2) 語彙(児童が使う語彙)

・動作 (play [the recorder/the piano] ,ride a [bicycle/unicycle] ,swim,skate,ski,cook,dance,run fast, Jump high, sing well),can,can't,he,she,Mr.,Ms.,net,omelet

6 該当する学習指導要領における領域別目標

聞くこと	イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。
話すこと (やり取り)	ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問したり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。
話すこと (発表)	ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
書くこと	イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

7 単元の評価規準

知識・技能	① Can を使って、先生や友達の紹介ができる。 ② 単語の綴りを見て、書き写すことができる。
思考・判断・表現	① 発表に向けて、話型以外の発表の仕方について考えることができる。 ② 話型を参考にした発表を通して、考えを伝え合うことができる。 ③ 音声で慣れ親しんだ表現を推測しながら聞くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	① 学習に興味をもち、主体的に学びに向かうことができる。 ② 学習に見通しをもち、計画的に学習することができる。

8 単元指導計画(8時間)

時	目標(◆)と主な活動(【 】、○) 主題にせまるための手立て(◎)	評価
1	◆単元の見通しをもち、Can の使い方について知ることができる。 ○「small talk」(有名人を題材に Can を使った Small talk をする。) ○既習事項の確認。応用できそうなことの確認。 ○単元の学習の流れを知る。 ○「I can~.」の言い方を知り、発音する。 ○「Can you ~.」の言い方を練習する。 ○ペアになり練習をする。 ◎3-(1)	主-①
2	◆三人称について知り、練習をして話せるようになる。 ○「small talk」(自己紹介や好きな色など、HRTと児童で1分間程度話す) ○グループ内でアドバイスし合い、発表の話型に沿って練習する。 ◎3-(1)	知-①
3	◆紹介する先生を決め、発表に向け準備をし、学習の見通しをもつことができる。 ○「small talk」(自己紹介や好きな色など、児童同士で1分間程度話す) ○話型に沿って練習したり、話型以外のことも話せるよう考えたりする。 ○ ◎3-(2)	思-③ 主-②

4	◆紹介する先生についての発表に向けて練習をし、話型以外でも会話に必要なスクリプトを考えることができる。	
	○「small talk」(自己紹介や好きな色など、児童同士で1分間程度話す) ○話型に沿って練習したり、話型以外のことも話せるよう考えたりする。 ◎3-(2)	思-①
5	◆紹介する先生についての発表に向けて練習をし、リハーサルを行い、修正点を洗い出すことができる。	
	○「small talk」(自己紹介や好きな色など、児童同士で1分間程度話す) ○発表に向けて、グループになってリハーサルをする。 ◎3-(3)	思-② 主-①
6 (本時)	※9の本時を参照。	
7	◆発表でメモした単語を辞書で調べ、書き取りの練習をすることができる。	
	○「small talk」(自己紹介や好きな色など、児童同士で1分間程度話す) ○発表でメモしたことを辞書で調べ、書き取りをする。	知-②
8	◆クラス全員にグループごとに発表をすることができる。	
	○「small talk」(自己紹介や好きな色など、児童同士で1分間程度話す) ○クラス全員の前でグループごとに発表をする。 ◎3-(3)	思-②

9 本時(全8時間の6時間目)

(1) 本時の目標

紹介する先生について発表することができる。

(2) 準備物

・ホワイトボード ・辞書 ・タブレット ・既習の掲示物を活用

(3) 表現・語彙

・Can you~? Yes,I can./No I can't. [I/You/He/She] [can/can't]
・今までの既習の表現 (What sports do you like? When is your birthday? など)

(4) 本時の展開

時間	児童の活動 △児童のつまずき	指導者(T)の活動と使用英語例 ☆児童のつまずきに対する教師の支援	準備物 評価
2分	<u>Greeting</u> ○あいさつをする ○英語でリアクションする。 ・教師→児童	☆英語を学習する際に意識すべき BEST (Big&Clear voice, Eye contact, Smile, Try) を確認する。	
2分	<u>Warming up</u> ○本時で扱う表現について練習をする。	☆既習事項の確認をする。細かいところまで正しく言えているかを確認する。	
2分	<u>Small Talk</u> ○児童同士で既習の表現を使って質問したりたずねあったりする。 △質問が途切れてしまう。	☆質問に詰まったら掲示物を確認するよう促す。	
2分	<u>Today's goal</u> ○本時のめあてを確認する。		
	英語で、先生の紹介をしよう。		
	○本時のながれを確認する。		

	① 準備をする。 ② A グループが発表の準備をする。 ③ A グループが発表を行う。 ④ A グループは発表について、B グループは発表を聞くことについての小リフレクションを行い。全体で共有する。 ⑤ B グループが発表の準備をする。 ⑥ B グループが発表を行う。 ⑦ リフレクションを行う。		
1 3 分	Presentation 1 ○グループごとに分かれ、発表の準備をする。(A グループ) ○前半のグループの発表をする。 △自信をもって話せない。	☆H R Tが助言をする。ペアの友達と少し練習をする時間を設け、安心させる。	主-①
5 分	Reflection 1 ○A グループは発表について、B グループは発表を聞くことについてのリフレクションを行い、全体で共有する。 △何を修正すればよいか分からない。	☆リフレクションを共有し、Bグループの発表に生かすよう声をかける。 ☆修正点を洗い出し調整したり、良かったりしたことを価値づけたりする。 ☆H R Tから修正点を伝える。	・ ホワイトボード
1 3 分	Presentation 2 ○B グループの発表をするための準備をする。 ○グループごとに分かれ、発表の準備をする。(後半グループ) △自信をもって話せない。	☆H R Tが助言をする。ペアの友達と少し練習をする時間を設け、安心させる。	・ ホワイトボード 思-②
6 分	Reflection 2 ○本時のリフレクションを行う。 Closing ○あいさつをする。	☆リフレクションカードの記入事項を確認する。 ☆数名の児童に感想を発表させる。	

(4) 授業観察の視点

- ・ 様々な表現を応用して、教師を紹介する活動は対話的な学びにつながっていたか。